

令和4年2月定例会 特別委員会の記録

県民健康・こどもの未来特別委員会

委員会は、付議事件1「県民の健康について」及び付議事件2「こどもの未来づくりについて」の概要について、執行部から説明を受けるとともに、審議を行った。

付 議 事 件
1 県民の健康について 2 こどもの未来づくりについて 3 上記1及び2に関連する事項
調査事項及び調査内容
<u>1 県民の健康について</u> <u>(1) 全国に誇れる健康長寿県づくりについて</u> ① <u>健康寿命の延伸に向けた取組の推進</u> ② <u>県民参加による健康づくりの推進</u> <u>(2) 安心の医療、介護・福祉提供体制の整備について</u> ① <u>安心の医療提供体制の整備</u> ② <u>高齢者・障がい者が安心して暮らせる介護・福祉提供体制の整備</u>
<u>2 こどもの未来づくりについて</u> <u>(1) 少子化対策・子育て支援について</u> ① <u>出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる環境づくり</u> ② <u>安心して子育てできる環境づくり</u> <u>(2) 福島ならではの教育の充実について</u> ① <u>学びの変革と多様性を重視した教育の推進</u> ② <u>福島に誇りを持つことができる教育の推進</u>

委員長名	長尾トモ子
委員会開催日	令和4年3月16日（水）
所属委員	[副委員長] 三村博隆 佐藤郁雄 [理事] 亀岡義尚 宮本しづえ [委員] 渡邊哲也 真山祐一 佐々木彰 三瓶正栄 先崎温容 高橋秀樹 太田光秋 瓜生信一郎



長尾トモ子委員長

（ 3月16日（水））

宮本しづえ委員

新型コロナウイルス感染症対策について、第6波が第5波をはるかに上回る感染者数で推移し、高止まりしている状況である。第6波の感染者の特徴と、自宅療養や宿泊療養などの判断をどのように区別して対応しているのか。

医療調整担当課長

感染者の状況について、第6波ではオミクロン株が主流であり、昨年夏の第5波ではデルタ株が主流であった。

オミクロン株の特徴は軽症者が多く、若者が多数感染している状況である。受診先医療機関の医師の判断や保健所において聞き取りを行う中で、自宅療養や宿泊療養、入院の判断をしている。

子供が多い家庭では、既に兄弟や家族が感染している状況も多く、その場合は環境が変わる宿泊療養よりも自宅療養がよいこともある。最初の頃は心配する者も多く、判断に迷ったが、これだけ感染者が出ている中では、多くの者が自宅療養でも問題なく療養期間を終えられている状況である。

その中で宿泊療養は、家庭内で感染対策が難しい環境にある者、入院治療までは必要がないが宿泊施設には看護師がいるため、そこでの観察をしたほうがよい者、感染対策はできるが一人暮らしで1人であることが心配である者については、宿泊療養施設での療養を積極的に勧めている。

自宅療養よりは宿泊療養施設を勧める対応を取っているが、結果的に自宅療養となる者も多い状況である。

宮本しづえ委員

若年層の感染者が多いが、第6波に入り死亡者も出ている。

この死亡者の特徴についてはどのように分析しているのか。

医療調整担当課長

死亡について具体的な分析までは至っていないが、死亡者の多くは高齢者であり、報道にもあるとおり、新型コロナウイルス感染症というよりは、もともとの疾患による死亡が多い印象である。

宮本しづえ委員

オミクロン株には、BA.1とBA.2があり、専門家の間では、4月に入るとBA.2にはほぼ置き換わるのではないかと指摘がある。

本県において、どのようにこの置き換わり状況を調査、検査しているのか。

医療調整担当課長

BA.2への置き換わりが進んでいるとされているが、実際にはゲノム解析で判断する。以前、デルタ株かオミクロン株か判断する際にもゲノム解析を用いて判断した。県内においては、県衛生研究所で検査している。

しかし、新規陽性者数が多い状況であるため、抽出して検査している。国からも通知が出ており、重症者、死亡者、ま

た県として高齢者施設等で起こった事例については積極的に検査している。それ以外についても、可能な限り検査で拾い上げている。

2月25日にその状況について報告しており、県内ではその時点でオミクロン株とゲノム解析で確定したものが791件あり、そのうちB.A.2については7件であった。その後の検査については随時行っているが、今後の拡大についてはまだ判断していない。

宮本しづえ委員

7件という発表は確認した。7件という数字が出て以降、その後の状況が公表されていないが、7件では済まないと思っていた。分析が進んでいるのかと思い、聞いた。

抽出で検査していると思うが、クラスター発生時に、そのクラスターの中で検査を1件すれば、どの株かは判断でき、置き換わりがどの程度進んでいるかは一定の判断ができると思われるため、今の段階で、おおむねこの程度という数字を聞いた。

最近、子供と高齢者の施設でクラスターが起きている。これらの施設に対する集中的な対策や戦略が、感染拡大を抑え込む意味で非常に重要だと思う。そのためには、大規模な幅広い検査が必要であり、それが抑え込みの戦略として一番大事な点であると思う。

そのような観点で、検査を適切に実施できているかが大変気になるが、どのように取り組んでいるのか。

高齢福祉課長

高齢者施設の従事者へのPCR検査を昨年5月から実施しており、クラスターによる重症化リスクの高い入所型の高齢者施設や関連する通所サービスを提供している施設でも行っている。具体的には新型コロナウイルス感染症対策本部と保健所長で協議し、対象となる地区では2週間に1回程度PCR検査を行っている。先週までに約17,000件の検査を実施し、その中で陽性と判明したのは18件であり、保健所において適切に対応している。

先崎温容委員

コロナ禍が続く中で、特に高齢者を対象に各集会所や自治会単位で行っているサロン教室等が実施できない状況が続いている。前年度まで非常に好評だった健康づくり推進課の高齢者支え合いコミュニティ支援事業は、今年度1件も申請がなかったと聞いている。この2年間、そのような状況が続いており、各市町村や社会福祉協議会、高齢者団体等による健康づくり事業の停滞などを踏まえた今後の方向性について、次回の委員会までに示してほしいが、どうか。

健康づくり推進課長

高齢者の地域における社会参加の状況について、コロナ禍となり地域の通いの場等が令和元年度に比べて2年度は数字が落ちている状況がある。市町村の全ての通いの場を把握しておらず、あくまでも市町村から聞き取った状況にはなるが、数字が若干落ちている。無理に参加してほしいとは正直言にくいですが、それぞれの通いの場において、有効な感染対策を取ってもらう。例えば、通いの場の場所を広めに用意したり、講師だけリモートで参加するなどの工夫された事例が市町村から数多く報告されている。そのような情報を共有し、感染防止が最優先ではあるが、できるだけ工夫してそのような取組の芽を潰さず、回復したときにすぐに戻れるように、情報提供をしっかりと行っていきたいと考えている。

先崎温容委員

次回の委員会までに様々な情報が集まれば、現状認識やこれからどのように推進するかとの点でも目安になると思うため、調査願う。

長尾トモ子委員長

ただいま委員から指示のあった内容に関する資料を、次回まで準備できるか。

健康づくり推進課長

次回までに内容を考えて資料提供したいと考えている。

宮本しづえ委員

本会議においても県民の健康づくりとの関係で指摘したが、各種検診の受診率が非常に低下しており、がん検診は3割程度減っている。県内の状況について、市町村ごとに直近の数値があれば、特定健診とがん検診に分けて、資料として次の委員会までに提出することはできるか。

長尾トモ子委員長

ただいま委員から指示のあった資料について次回まで準備できるか。

健康づくり推進課長

市町村におけるがん検診については、令和2年度の状況がまとまりつつあり、それをベースにした資料の提供は可能である。

国民健康保険課長

市町村で行っている特定健診についても、令和2年度の結果をまとめているところであるため、状況を含めて整理する。

宮本しづえ委員

保育ニーズへの対応について、待機児童の解消に向けて県内でも取組が進んできたと思うが、4月1日時点の見通しはどのような状況になっているのか。

子育て支援課長

待機児童の見通しについては、年々減少傾向にある。4月の見通しについては、これから市町村等に調査してまとめるため、詳細な人数は把握していないが、今年度も各市町村において施設整備等を行い定員増員を図っている。